

市長（作野広昭君）

就任当時の市政に対する現状認識と、現在の心境の変化についてであります。

議員の皆さんもしかり、私もしかりであります。選挙を受けなければいけない立場であり、また選挙をしてきた人間といたしまして、何事にも頑張れと、皆さんに対しても、いろんな施策でも、自分の政治姿勢でも頑張れという人もいれば、批判をする人もいれば、それはいろいろだと思います。

日本の総理大臣でも批判は毎日、新聞に出ておりますし、だれがなってもこれはされます。どこが民主主義なのかわかりませんが、51%で総理大臣にもなれるという国であります。結構なお話です。私らでもそうです。皆さんも51%で、市長にでも、知事にでもなれるんです。

そんなことを思いますと、頑張れはありがたいなど。批判はもっと頑張れという応援だというふうに感じながら、一生懸命にこれまでの経験を生かして、それをフルに発揮できるように頑張っていきたいと思っております。

今、書いてあることを読ませていただきますが、市長就任直後は本市に豊かな自然や伝統文化、観光資源が豊富にあり、これらを活用することが地域の振興策となり、市全体の発展につながると思っておりました。この思いは今も変わっておりません。

しかしながら、市政の懸案、重点事項のヒアリングを重ねるごとに、スキー場の赤字や第三セクターの不良債務、類似する公共施設の多さ、さらには合併特例措置終了後の財政問題などの認識を新たにしたところであります。

まずはこうした問題を解決し、安定した行財政基盤を確立することが最優先課題と考え、積極的な行財政改革に取り組んでいるところであります。

次に、この2年間の評価ですが、私が評価するよりも市民の皆さんが判断するものと考えており、これまでと同様に市民の幸せを第一に、市政の運営を進めてまいり所存であります。

市民の意思の反映については、市政の状況や行財政改革について、就任以来90回の市政報告会や懇談会を重ね、若い世代から高齢者、白山ろく地域から平野部の各地域でさまざまな御意見をいただくとともに、提案ハガキや提案メールなどを通じて市民の皆様の声を市政に反映するように努めております。

特に行財政改革については、痛みを伴うものでありますから、懇切丁寧な説明を行っているところであります。

いずれにいたしましても、折り返し点であるこれからの2年間、直面する大きな課題を解決し、次世代へ負担を残さぬようハード、ソフト両面にわたる改革を進め、本市が県内随一の魅力あふれる町として、住んでよかったと思ってもらえるように取り組んでまいりたいと考えております。